

赤旗

【国民運動】

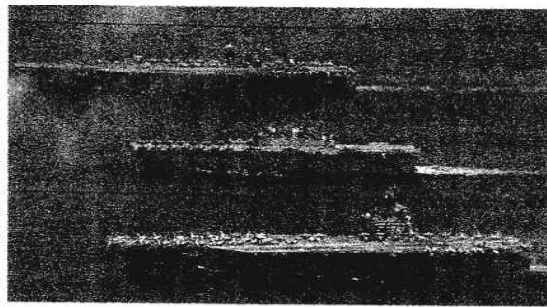
2024年6月7日 (金曜日)

自衛隊初参加 米司令官が全部隊指揮の演習

米軍は、インド太平洋地域で対中国を想定したあらゆる軍事作戦に日本など同盟国、協力国を組み込む「一体化」の態勢づくりを急速に進めています。その具体化が7～18日に日本やグアム、ハワイを含むインド太平洋地域で米軍を中心に実施する演習「バリアン・ト・シールド2024」(VS24)です。陸海空の全ての作戦を米軍司令官が他国の部隊も含めて指揮する「合同」の統合全領域作戦の訓練として日本の自衛隊が初参加します。

当初から計画

統合全領域作戦は、陸軍が体制強化を進めてきた陸海空の従来の領域と情報・



米海軍原子力空母レーガン(手前)、リンカーン(奥)、強襲揚陸艦トリポリなどが参加したVS22演習(2020年6月12日、フィリピン海(米国防総省映像情報配信サービスVIDIS))

全領域作戦で一体化

日本・協力国を米軍作戦に組み込む

「多領域作戦」を、全軍種の部隊を1人の指揮官が一括して指揮する統合作戦として実施するものです。

VS演習は2006年6月に米太平洋艦隊を司令部に海軍、空軍を中心とした米軍単独の最大規模の統合演習として始まり、隔年実施。前回22年の演習は、統合全領域作戦のために陸海空軍の指揮・統制ネットワークを一体化した統合全領域指揮・統制による史上初の演習でした。統合全領域指揮・統制は、20年の米陸軍と空軍の合意で、当初から同盟国、協力国も組み込む「合同」統合全領域指揮・統制として計画されました。

同盟国で実施

米インド太平洋軍のアキリーノ司令官(当時)は3月20日に発表した態勢報告で「最上位の全領域戦闘を実行する能力を実証するために演習プログラムを進化」させると強調。23年に米国と同盟国、協力国を含む19の統合演習と90を超える軍種演習を統括したと明らかにしました。日本やフィリピンとの2国間演習を多国間に拡大し、VSなど米軍単独演習に同盟国を組み合わせ、「これまで地理的に重点を置いていたこれらの演習は、戦域全体の機能をリンクし、演習科目に合同統合全領域作戦を追加したことで、より広い全戦域への参加で実施した」と述べました。

VS24への自衛隊参加と

他国攻撃の役割

日本平和委員会

千坂純事務局長

これはまさに4月の日米首脳会談で合意された米軍・自衛隊の指揮・統制体制の一体化を図り、米軍の指揮の下に自衛隊が「シームレス(継ぎ目のない)な」軍事作戦を遂行する態勢づくりと一体の動きです。しかも、日本は「最も重要な同盟国」として、米軍とともに他国を攻撃する役割も担われようとしているのです。この軍拡と緊張を激化させる道をストップさせなければなりません。

横田基地に外来機急増

在日米軍横田基地（東京都多摩地域）に米本土などから飛来する米軍輸送機などが急増しています。7日から18日まで行われている米軍を中心とした大規模多国間実動演習「バリアント・シールド2024」(VS24)で、輸送などを実施。横田基地が、米軍が想定する対中国作戦で、兵站（へいたん）支援、航空輸送の拠点とされつつあることが分かります。

インド太平洋での大規模演習輸送支援

横田基地の監視活動 サス州のC-130J輸送機が、グアムのアン羽村平和委員会は、演習が始まった7日以降、カリフォルニア、テキサス、ニュージャージー、アラスカ、ミズーリの各州から横田基地へ多数の輸送機が飛来し、太平洋方面との間を行き来していることを確認。米軍のユースも、カリフォルニア州のC5大型輸送機やニュージャージーのC17輸送機、テキスカ州のC17輸送機、グアムを中心に実施したVS24では、南シナ海で米海軍原子力空母セオドア・ルーズベルトを中心にフランス、カナダ海軍の艦船を加えた空母打撃群、フィリピン海で米原子力空母ロナルド・レー

ガンを中心とする海上自衛隊の護衛艦「い



バリアント・シールド演習で横田基地とグアムの間を頻りに飛行する米軍C17輸送機。10日、東京・横田基地（羽村平和委員会提供）

ずも「はぐろ」、潜水艦「じんげい」を加えた空母打撃群が訓練を実施。航空自衛隊からF2、F15戦闘機も参加しています。日本国内でも横田基地と北海道大演習場を使ったパラシュート降下訓練や、鹿児島・奄美など九州での対艦戦闘訓練、八戸（青森県）、松島（宮城県）、西基地での米軍戦闘機展開訓練や対空戦闘訓練、関東から九州にかけての患者後送訓練などを行いました。

C17輸送機は、演習に向けた飛行前点検を横田基地で実施したほ

か、アンダーセン空軍基地では、エンジン稼働状態での燃料補給や航空機から航空機への給油、航空機から地上施設への給油などを行っていました。横田基地では、空中給油機への燃料供給や、輸送機に燃料を満載して前線の基地まで運ぶことも想定した大型輸送機9機分の新たな駐機場、ジェット燃料の受領・分配施設、大型燃料タンクの建設など米軍のインド太平洋地域の軍事作戦を支援するための基地強化が進んでいます。

横田基地の撤去を求める西多摩の会の奥富喜一代表の話 横田基地を中心に、日本の国土が、日常訓練に限らず常に戦える基地として、在日米軍司令官を中將から大將に格上げも検討との発表も併せ、横田基地をはじめ日本を戦争に巻き込む体制が大きく進む現実を恐ろしく感じます。横田友好祭に30万人を超える観客という日本人の状況の現実を見て、「横田基地撤去」を掲げ、危険性を広く知らせたい。

普段見られない軍用機が多数飛来

「バリアント・シールド2024」には普段横田基地に飛来しない米軍機が多数飛来しました。赤旗掲載のC-17大型輸送機はニュージャージー州マクガイア基地所属で4機飛来して、毎日のようにグアムに出かけたり太平洋を飛び回ったりしていました。

この他、横田基地所属の輸送機C-130J-30と同型機がカリフォルニア州やテキサス州から飛来、またアラスカ州からはHC-130J 捜索救難機（右写真）が飛来しました。同機は両翼端に給油ポッドを装備し、捜索・救難にあたるヘリコプターに空中給油もできます。

